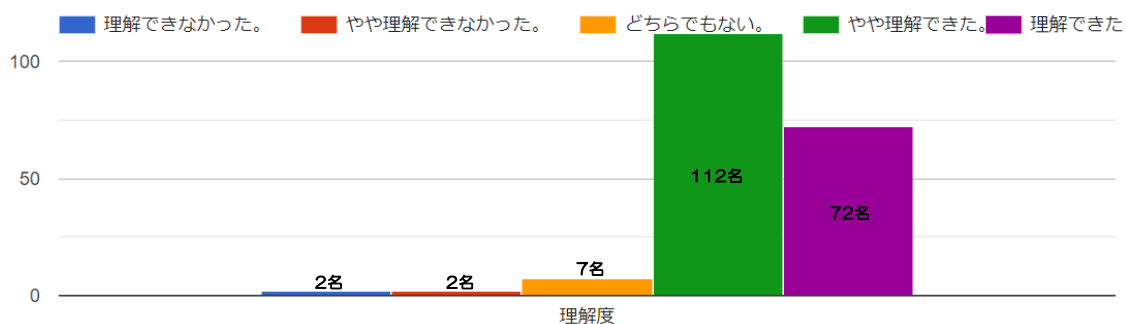


【オンデマンド配信】

アンケート 1) 「糖尿病の診断と検査」の講義に対する理解度。



レポート提出 193 名中、9 割超と多くの方が理解できたとご回答いただきました。

アンケート 2) 「糖尿病の診断と検査」の講義に対するご意見。(一例)

- ・糖代謝、診断基準から検査項目まで順番に説明され、とてもわかりやすかった。
- ・糖尿病検査について要点を丁寧に解説いただき、復習かつ再確認の意味でも大変参考になりました。新たに知識として習得出来たこともありました。
- ・診断検査と病態把握検査の違いを分かり易く講義してもらい、大変勉強になりました。

アンケート 3) 本研究会のどのような点が特に役に立ちましたか。(一例)

- ・糖尿病を学び始めた新人にも役立つ良い講演でした。
- ・糖尿病の基準、各種検査方法、最近のトピックスが全て網羅されていた点。
- ・生化学検査や血液学検査などのデータから読み解く部分は、大変勉強になった。
- ・どの講演でもスライドが見やすく、わかりやすかった。

アンケート 4) その他ご意見。(一例)

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り、一部ご回答させていただきます。

ご意見①：各疾患についても、データの読み方、検査方法、トピックス、症例検討など、是非ともお願いいたします。他県からの参加ですが、大変良い勉強会で、素晴らしいと思えました。また参加したいです。

回答①：ご好評いただきありがとうございます。今後もトピックス項目や皆様のニーズに沿った内容の研究会が開催できるよう、班員一同努力してまいります。県内・県外会員間問わずご参加していただけるよう継続を考えております。また、生涯教育点数の付与もいたしますので、皆様お誘いあわせのうえお申込みいただけますと幸いです。

ご意見②：閲覧期間の延長、もしくはスライド（資料）のダウンロードなどができると助かります。

回答②：貴重なそして多く同様のご意見ありがとうございます。こちらに関しては、今後の検討課題とさせていただきます。

【設問 1) ～6) と正解】

設問 1) 糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）でアシドーシスを補正する代償として正しいものを1つ選択してください。

1. 呼吸性アシドーシス
2. クスマウル大呼吸
3. 呼気アンモニア臭

正解 1) 2

設問 2) 誤っているものを1つ選択してください。

1. 糖尿病はインスリン分泌障害やインスリン分泌抵抗によって高血糖になる。
2. 高血糖時、インスリン分泌は代償機構が働くが、やがて糖毒性に陥る。
3. 日本人はインスリン分泌能が遺伝的に高い。

正解 2) 3

設問 3) 誤っているものを1つ選択してください。

1. 糖尿病は成因により3つに分類される。
2. 糖尿病の病態はインスリン分泌不全とインスリン分泌障害（インスリン抵抗性）がある。
3. 高血糖が長く続くと合併症として細血管障害が起こる。

正解 3) 1

設問 4) 糖尿病診断に用いることができる検査値を2つ選択してください。

1. インスリン
2. 75 g OGTT2 時間値
3. グリコアルブミン
4. 抗 GAD 抗体

5. 随時血糖値

正解 4) 2、5

設問 5) 次のうち誤っているものを1つ選択してください。

1. 75 g OGTT を行うことで、食後高血糖を評価することができる。
2. 赤血球寿命が短縮する疾患や状況では、平均血糖値に対して HbA1c は低値に測定される。
3. 尿糖の糖排閾値は、血糖値 160~180mg/dL である。
4. HOMA- β はインスリン抵抗性を評価する指標である。
5. 持続血糖モニター (CGM/FGM) は間質液中のグルコースを測定している。

正解 5) 4

設問 6) 尿アルブミン/Cre 比が 18.3mg/gCre、eGFR が 96.6 の時の糖尿病腎症の病気分類を1つ選択してください。

1. 腎症 1 期 (腎症前期)
2. 腎症 2 期 (早期腎症期)
3. 腎症 3 期 (顕性腎症期)
4. 腎症 4 期 (腎不全期)
5. 腎症 5 期 (透析療法期)

正解 6) 1

<まとめ>

2022年度4月研究会は昨年に引き続きオンデマンド配信にて実施させていただきました。事前申し込み 271 名に対して、193 名 (うち県内 140 名、県外 53 名) の方がレポート提出してくださいました。

今回のテーマは『改めて学ぶ』をテーマに挙げ、糖尿病の基礎、病態、症例、検査について、初心者からベテランの方まで分かり易い内容でお届けさせていただきました。

アンケートでは、今後、糖尿病以外の疾患も解説して欲しいなど貴重なご意見もいただき、皆様からご期待いただけているのを感じております。

昨年度末に実施の研究会のおよそ倍の申し込み・レポート提出があり、皆様に興味・関心を持っていただける配信が出来たと感じる一方、昨年度末のテーマである『精度管理』に関しては、まだまだ触れにくく難しい印象があるのではないかと感じました。

今回の研修会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いに存じます。引き続き愛知県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班をよろしく願いいたします。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班

(一社) 半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部

青木 岳史

TEL : 0569-27-7886

E-Mail : c1937_aoki@handa-med.jp